

第 29 回 安全設計分科会 議事録

1. 日 時 平成 25 年 2 月 27 日 (水) 13:30 ~ 15:00

2. 場 所 日本電気協会 4 階 C, D 会議室

3. 出席者 (敬称略, 五十音順)

出席委員: 古田分科会長 (東京大学), 田中幹事 (関西電力), 江畑 (原子力安全基盤機構), 岡本 (富士電機), 柿山 (九州電力), 河井 (原子力安全推進協会), 米野 (日本原電), 佐々木 (日立 GE ニュークリア・エナジー), 水門 (電事連), 鈴木 (日本原子力研究開発機構), 成田 (北海道大学名誉教授), 沼田 (北海道電力), 松村 (三菱電機), 山中 (東京電力), 吉川 (京都大学名誉教授) (15名)

代理委員: 石原 (電力中央研究所・新藤代理), 木下 (三菱重工・高橋代理), 木村 (東北電力・阿部代理), 土肥 (電源開発・石倉代理), 松本 (中部電力・竹山代理), 三村 (東芝・橋本代理), 村上 (中国電力・山口代理) (7名)

欠席委員: 門屋 (四国電力), 倉田 (北陸電力), 齊藤 (東京工業大学), 高木 (東京都市大学) (4名)

説明者: 新郷 (日本原電・原子力発電所緊急時対策所設計指針検討会) (1名)

事務局: 牧野, 鈴木, 田村, 志田 (日本電気協会) (4名)

4. 配付資料

資料 No.29-1 第 28 回 安全設計分科会 議事録 (案)

資料 No.29-2-1 原子力規格委員会 安全設計分科会 委員名簿 (案)

資料 No.29-2-2 原子力規格委員会 安全設計分科会 検討会委員名簿 (案)

資料 No.29-3 平成 24 年度活動実績及び平成 25 年度活動計画 (案)

資料 No.29-4 「各分野の規格策定活動」平成 25 年度見直し案

資料 No.29-5-1 新安全基準骨子案パブリックコメント (原子炉冷却材圧力バウンダリ)

資料 No.29-5-2 新安全基準骨子案パブリックコメント (緊急時対策所)

参考資料-1 日本電気協会 原子力規格委員会 平成 24 年度各分野の規格策定活動

参考資料-2 第 45 回原子力規格委員会 議事録 (案)

参考資料-3 発電用軽水型原子炉施設に係る新安全基準骨子案について

5. 議事

(1) 代理出席者の承認, 会議定足数の確認

事務局より本日の代理出席者 7 名を紹介し, 分科会長の承認を得た。また, 委員総数 26 名に対し, 本日の出席者数は代理出席者を含めて 22 名であり会議開催条件の委員総数の 3 分の 2 以上 (18 名以上) の出席を満たしていることの報告があった。

(2) 前回議事録の確認

事務局より、資料 No.29-1 に基づき、前回議事録(案)の説明があり、原案通り承認された。

(3) 委員の変更について

1)分科会委員の変更報告

事務局より、資料 No.29-2-1 に基づき、新委員候補並びに委員再任候補の紹介があった。新委員候補者 1 名並びに再任候補委員については、3/19 の第 46 回原子力規格委員会で審議の予定。

新委員候補者

・三村 聡(東芝)

2)検討会委員の承認

事務局より、資料 No.29-2-2 に基づき下記検討会の新委員候補の報告があり、承認された。

- | | |
|-----------------------|-------------|
| a.安全設計指針検討会 | 3 名 |
| ・小野 寛(原子力安全基盤機構) | ・濱崎亮一(東芝) |
| ・村上幸三(中国電力) | |
| b.火災防護検討会 | 1 名 |
| ・椛島 一(原子力安全基盤機構) | |
| c.計測制御検討会 | 2 名 |
| ・矢吹祐一(中国電力) | ・石井伸弘(東京電力) |
| d.電気・計装品耐環境性能検討会 | 1 名 |
| ・好永功夫(三菱電機) | |
| e.原子力発電所緊急時対策所設計指針検討会 | 1 名 |
| ・井上忠司(東京電力) | |

(4) 安全設計分科会 平成 25 年度活動計画(案)の審議

1)安全設計分科会 平成 24 年度活動実績及び平成 25 年度活動計画(案)の審議

資料 No.29-3 に基づき、各検討会並びに事務局より、平成 24 年度活動実績及び平成 25 年度活動計画案の説明があった。

安全設計指針検討会：松本主査

火災防護検討会：事務局

計測制御検討会：新郷委員

電気・計装品耐環境性能検討：事務局

耐雷設計検討会：事務局

原子力発電所緊急時対策所設計検討会：米野主査，新郷常時参加者

平成 25 年度活動計画案について挙手により決議し、全員賛成により可決された。主な意見，コメントは下記の通り。

・計測制御検討会の活動計画に記載のある，国プロとはどのようなものか。

高温・高放射線のシビアアクシデントの環境下でも耐えられるような計装システムの開発・検討等を実施しており，エネ庁の提案で，電力，メーカーが参加して研究を実施している。計装システムの開発と並行して，規格基準の整備も進めており，平成 26 年 9 月完了を目途に実施している。

2) 各分野の規格策定活動(案)の審議

資料 No.29-4 に基づき、事務局より各分野の規格策定活動の平成 25 年度見直し案について説明があった。下記コメントを反映し修正することで、出席委員全員の挙手により可決された。

- ・原子力安全規制委員会は、原子力規制委員会の誤記のため修正する。
- ・新安全基準（設計基準）及び（シビアアクシデント対策）の記載は、新安全基準（設計基準及びシビアアクシデント対策）に修正する。
- ・日本原子力技術協会で取り纏めているとあるが、組織名称が変更となったため、日本原子力技術協会で取り纏めた、に修正する。
- ・日本原子力技術協会の提言の他、各種事故調査報告書の指摘事項等についても規格への反映を検討してきたため、追記する。

6. その他

(1) 規制庁安全基準骨子案パブリックコメント対応について

現在、原子力規制委員会が新安全基準骨子案のパブリックコメントを実施しているため(2/7～2/28の期間)、各検討会において関連箇所を確認した。安全設計指針検討会より1件(原子炉冷却材圧力バウンダリ)、原子力発電所緊急時対策所設計指針検討会より1件(緊急時対策所)の意見の提出を予定しており、各検討会より、資料No.29-5-1、5-2に基づき意見内容の説明があった。なお、検討会主査名で提出予定である。

主な意見、コメントは以下通り。

- ・日本電気協会からパブリックコメントで意見を出した場合に規制側から回答をもらえるのか。それとも電気事業者がヒアリングを受けたように、日本電気協会からもヒアリングしてもらおう方が望ましいのか、それについてどう考えているのか。
どの様に回答されるか分からない。しかし、我々は規格を担当しているという視点でコメントしている。
- ・日本電気協会として、全体としてはどの様な考えで対応するのか。
日本電気協会としては各分科会で対応している。例えば耐震設計分科会では地震、津波の新基準についての意見を出すことを考えている。また、3学協会規格類協議会として性能規定と仕様規定についての原則を守ってもらいたいことについて意見を出すこととしている。
- ・パブコメがどの様に扱われるかという情報が分かたら教えてほしい。その結果によっては表現を見直さなければならない場合が出てくることもあると思う。
原子力規制委員会のホームページでは、取り扱いについては未提示である。
パブコメを実施する場合、意見を受けてどう対応するのかの手順を公開しないといけない。まず、これを意見として出すべき。責任を持って文章に対して答えをもらえるのか、あるいは受け取ったという姿勢だけで終わってしまうのか心配がある。
明日(2月28日)が期限なので、事務局でパブコメ意見の取り扱いを確認したい。回答を頂ければ、各委員へメールで連絡する。

(2) 次回の分科会は 平成25年5月頃とし、日程は別途各委員に連絡する。

以上